

放課後学習と部活動意欲との関連

河村明和(東京福祉大学)

キーワード: 放課後学習, 部活動意欲, 中学生

問題と目的

2017年に文部科学省より告示された学習指導要領では、部活動は学校教育で求められる資質能力の育成に資する活動であることが明記され、教育課程外ではあるものの、学校教育との関連、学習意欲との関連などが求められている。部活動と学習意欲、スクールモラルとの関連は、先行研究において示唆されているが(岡田, 2009)、本研究では、学習と部活動との関連を、先行研究ではあまり扱われていない、放課後学習との関連について検討することを目的とする。

方法

調査時期・調査対象

201X年11月に質問紙による調査を行った。A県B市C中学校の生徒180名(男子85名, 女子95名)を調査の対象とし、すべての項目に対し欠損値がない有効回答者174名(男子83名, 女子91名, 有効回答率96.7%)を分析の対象とした。

測定用具

中学校を対象とした質問紙による調査を行い、質問紙は部活動意欲尺度を使用した。これは、河村(2002)が作成した尺度であり、部活動の意欲を測るもので、一因子で構成されており、4項目で測定される。項目における評定は5件法(「1; 全くあてはまらない」から「5; とてもあてはまる」)であり、それぞれ単純加算により得点を算出するものである。

また、放課後学習の状況を確認するために、「部活動やクラブ等の活動がある日の下校後に勉強をしていますか」の質問に対して、「1. 宿題も含めて勉強をしている、2. 宿題のみ実施している、3. 宿題がない場合でも学習をしている」の3つの質問項目から回答を求めた。

調査手続き

本調査は、校長、学級担任に承諾を得た上で、学級ごとに質問紙による調査を実施した。調査を実施するにあたり、担任教員には同封されている実施の手順、注意事項のプリントに沿ってアンケートを実施することを依頼した。また、この調査は学校の成績に関係がないこと、回答は強制ではなく回答しなくても不利益を被らないこと、回答は担任教師を含め教職員に見られることなく、データ処理されること、個人のプライバシーは守られることをフェイスシートに明記し、調査参加者

にも伝えるよう依頼した。そして、アンケートを回収する際は、回収用の封筒に生徒が回答したアンケートを入れ、その場で密封し、生徒に余計な不安を与えることがないように配慮した。なお、本調査にあたっては、調査校を管轄する教育委員会と著者が所属していた大学との間で協定を締結し、調査研究の内容については、大学の倫理委員会の審査を受け、承認を得た。以上の手続きを行った上で、学年、組、性別、出席番号の記入を求め、これらの情報を基にデータの照合を行い、IBM SPSS Statistics 25を使用し、統計処理を行った。

結果と考察

結果として、放課後学習の3つの群と部活動意欲での一要因分散分析では、「宿題以外にも学習を行っている」と回答した生徒は、「宿題を含め勉強をしていない」「宿題のみを行っている」と回答した生徒よりも部活動意欲の得点が有意に高いことが確認された(Table 1)。

Table1 放課後学習の状況と部活動意欲での一要因分散分析結果

1	2	3	F値	多重比較
(n=4)	(n=73)	(n=97)	(2,171)	
15.00	17.88	18.25	5.49*	3>1,2
(1.83)	(2.16)	(1.84)		

上段: 平均値 下段: 標準偏差 * $p < .05$

以上の結果から、先行研究において、学習意欲と部活動意欲との関連が示唆されているように、放課後学習においても、部活動意欲との関連が示唆された。しかし、本研究は、調査の対象が1校であることや、放課後学習と部活動意欲にどのような関連があるのかまでは検討が行えていないため、今後の課題としたい。

引用文献

- 岡田有司(2009). 部活動への参加が中学生の学校への心理社会的適応に与える影響—部活動のタイプ・積極性に注目して— 教育心理学研究, 57, 419 - 431.
- 河村茂雄(2002). Q-U実施・解釈ハンドブック 中学・高校用 図書文化社
- 文部科学省(2017). 中学校学習指導要領